

第23号
2024年2月5日
発行者 岡村 隆弘
神戸空襲を記録する会
題字 玉井洋子

お知らせ

今年も、**第53回神戸空襲犠牲者合同慰霊祭**を行います！！

寒さが厳しい毎日ですが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。1995年1月17日の阪神淡路大震災に見舞われた私達を、次々続く自然災害を日本中の人々が、助け合ってきました。1月1日から続く能登地震も支えあいたいものです。今、ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザへの攻撃など、なぜこのような戦争が続くのか、と無力感にも襲われます。しかし、平和を求める願いと努力が届き、人が人を傷つけあう戦争を人間の思いや想像力、相互の信義と公正に基づき停戦へと進めることを信じたいものです。

79年前の2月5日、3月17日、5月11日、6月5日、8月6日と何度もあった神戸空襲を忘れないように、亡くなられた方々の無残な死や無念へ思いを新たにするために、亡くなられた方々を思うひと時を過ごします。

日時：2024年3月17日（日）午後1時30分～

空襲体験者のお話

場所：薬仙寺（兵庫区今出在家町4-1-14）TEL078-671-1696

当日 JR兵庫駅から、市営地下鉄海岸線 和田岬駅から案内板あり

（連絡先 080-1419-8208）

第52回慰霊祭



第7回 神戸空襲犠牲者刻銘追加式

日時：2024年6月2日（日）午前10時～12時頃

場所：大倉山公園 北側 神戸空襲を忘れない いのちと平和の碑



お問い合わせは 神戸空襲を記録する会電話 080-1419-8208 に

— 第 52 回神戸空襲犠牲者合同慰霊祭 3月 17 日 —

今年も薬仙寺で、神戸空襲犠牲者合同慰霊祭を行いました。ようやくコロナ禍も収束の方向に向かっているということで、約 60 人の方に参加いただきました。

事前に呼びかけた 2022 年度の兵庫県高校生平和大使やサポーターの方の参加で、会場に今までにない若い方の姿が見られました。体験者の皆様の中には、事前にお電話で、残念だけど出かけられなくなった、というお話が何件かありました。

慰霊祭は、犠牲者への黙祷、ご住職お二方の読経、代表岡村隆弘さん挨拶、富士繁一さん会計報告、とすすめました。昨年も少しお話いただいた井上義彦さんに、戦争の頃の様子や警察官だったお父様を空襲で亡くされたこと、ご遺体を見つけられた時の無念をお話いただきました。また、「神戸の戦争孤児の記録を残す会」白井勝彦さんに、神戸の戦争孤児の概要や、内藤さんという方の体験を紹介いただきました。改めて戦争孤児の人々がなぜ長らく口を閉じてこられたか、その厳しい体験から考えさせられました。今世界で起きている戦争や内戦の中での子どもたちの様子に重なり、本当に辛く厳しく感じました。

また、3月 17 日 18 日 19 日と、「井沢元晴 戦災スケッチ画展」を開催、空襲にあった神戸の街を描かれた絵 104 点を多くの皆様に見ていただきました。その際には、足立恵美子さんに全面的にご協力いただきました。



—6月 5 日（日）第 20 回戦跡ウォーク—

6月 4 日（日）東灘区の南東部にあたる深江・本庄地域で、第 20 回戦跡ウォーキングを行いました。およそ 50 人の参加者が JR 甲南山手駅南側広場に集合しました。

まず園田学園名誉教授であり昨年完成した兵庫津ミュージアム名誉館長でもある田辺真人さんから、「東灘の歴史と川西航空機爆撃」と題して 20 分程度解説をいただきました。以前はこの戦跡ウォークでも田辺さんから説明をいただいております。その時にも地域の歴史について詳しくお話をしてくださり、大変勉強になったことを覚えています。そのころを思い出し、少し懐かしい



気持ちになりました。続いて1945年5月11日の川西航空機爆撃目印となった赤鳥居（森稲荷神社大鳥居）に移動しました。ここでも田辺さんから説明をいただきました。神戸にあった空襲のうち特に被害が大きかったものとして、3月17日・5月11日・6月5日（火垂るの墓の舞台となった空襲）の3回が挙げられますが、そのうち5月11日だけが軍事拠点ターゲットとした爆弾を中心とする空襲であり、残り2回は焼夷弾を中心とするいわゆる無差別爆撃です。ちなみに、この赤鳥居のある神社の宮司は筆者の中学2年時の同級生であります。

その後深江生活文化史料館・大日霊女神社に移動しました。参加者が多いため半分にわかれ、資料館では館の大国さんから説明をいただき、神社では空襲を記録する会の小城さんが説明しました。深江生活文化史料館には、2階に戦争当時の本庄村の様子など戦争関係の展示がされているコーナーがあります。開館は土・日曜日のみですが、お時間があるときにゆっくり見学していただけたらと思います。大日霊女神社は1945年8月の空襲で社務所・だんじり倉庫・樹齢数百年の松などが焼失しました。本殿は残ったのですが、1995年の震災で倒壊し、その後再建されています。境内にその説明がされている碑があります。続いて本庄墓地まで移動しました。この墓地には、1977年に建立された旧本庄村空襲犠牲者慰霊碑（436人の犠牲者の慰霊）と2003年に建立された追悼碑（日清戦争から太平洋戦争までに本庄村から出征した戦没者400人の慰霊）があります。また全国的にも少なくなってきた忠魂碑もあります。この碑はもともと本庄小学校にありましたが、紆余曲折あって本庄墓地に再建されました。最後に5月11日の空襲体験者の話を聴くために本庄中学校に行きました。筆者が勤務している関係で、この中学校の正門すぐの多目的ホールを借りて話を伺いました。お母さまを亡くされた長岡正明さんと、祖母と叔母を亡くされた藤本吉江さんがお話を聴かせてくださいました。長岡さんが家をなくした後親戚などを転々とした経験、藤本さんが防空壕の中で「お母ちゃん、死んだらあかん」と何度も叫んだ記憶など、体験者だからこそ伝えられるお話が胸に響きました。

2年前からのロシア・ウクライナ戦争に続きパレスチナ攻撃など、いまだに戦火の終わることのない世界情勢、そしてさまざまな危機があおられ軍拡の道を進んでいる現代社会の情勢を鑑みて、ますます二度と戦争を起こさないために何ができるのかを考えさせられた戦跡ウォークになりました。今後もこのような取り組みを大切にしていきたいです。（山本 優）

—7月30日（日）シンポジウム「空襲・戦災体験を次の世代に引き継いでいくために—神戸空襲を記録する会のこれまでとこれから—

神戸空襲を記録する会主催 共催 兵庫津ミュージアム

午後1時30分から4時まで、兵庫津ミュージアム研修室で、参加者85人の参加で開催しました。

〔プログラム〕

報告 神戸空襲を記録する会代表 岡村隆弘

講演 田辺真人さん（兵庫津ミュージアム名誉館長、園田学園女子大学名誉教授）

「神戸空襲を記録する会の活動と中田政子さん」

パネルディスカッション 木村信行さん（神戸新聞論説委員）、長富日向さん（2022年高校生平和大使）、片瀬奏磨さん



(2021年・2022年高校生平和大使サポーター)、岡村代表
司会・コーディネーター 辻川敦・馬場敦子(神戸空襲を記録する会)

2023年6月、神戸空襲を記録する会は前代表・中田政子さんの三回忌を迎え、神戸史学会の協力を得て『歴史と神戸』特集号「神戸空襲を記録する会と中田政子さんの歩み」を刊行しました。この特集号の刊行を機に、中田さんの後を受け継ぐ私たちが会員や空襲・戦災に関心を寄せる市民のみなさんとともに活動をふりかえり、次の世代にどう継承していくのかをともに考える場としたいと考え、このシンポジウムを企画しました。戦跡ウォークなどを通じて長く会にご協力いただいている田辺真人さんに講師をお引き受けいただき、さらに同氏が名誉館長を務める兵庫津ミュージアムとの共催企画として、神戸空襲の原点ともいえる場所の一つである大輪田橋を望む同館研修室を会場として開催することができました。

【第1部：報告と講演】まず岡村代表が記録する会の活動について自身の体験をまじえて紹介し、中田前代表が強調した次世代への継承がこの



企画の趣旨であることを説明しました。続いて田辺真人さんから、「神戸空襲を記録する会の活動と中田政子さん」と題するご講演をいただきました。多くの日本人が戦争や空襲をよその世界の話とってきたのが、ウクライナでの戦争により他人事ではないと気付いたこと、太平洋戦争末期にはウクライナと同じく神戸をはじめ多くの日本の都市が空襲被害を受けたことから話をおこし、昭和20年3月17日の焼夷弾空襲により

大輪田橋で500人ものが焼け死に、そこにいた三木谷君子さんとお腹のなかの中田政子さんは生き延びたが、一緒にいた中田さんのお姉さんが犠牲になったことなどを紹介されました。そして、その後も『火垂るの墓』に描かれる6月5日空襲などにより神戸は大きな痛手を受けたこと、戦後は市民同友会、神戸史学会、神戸空襲を記録する会といった歴史を伝え市民自治を担う団体が連携して活動してきたことにふれたうえで、中田さんはよく「普通のおばさん、一人の主婦」と言って思想的党派的に偏らず普通の市民の立場で人々に接してきたこと、その一方で女性の大学進学率12%の時代に長田高校から神戸市外国語大学に進学した中田さんは、ただのおばさんではなかったと指摘され、活動を通じての中田さんとの交流の様子についてお話しいただきました。

【第2部：シンポジウム】

シンポジウムでは、まず木村信行さんが被爆二世という言葉を引き、中田さんは空襲二世、私たちは空襲三世でまわりは三世だらけ、空襲を体験してなくても学んで伝えていくことができると強調。続いて長富日向さんは、核兵器廃絶と平和な世界の実現を訴える署名を毎年ジュネーブの国連欧州本部に届ける高校生平和大使の活動を説明し、自分たちの未来をつくる活動を楽しみながらやっている、西脇市の小学校で平和授業の講師をした体験が一番心に残っていると発言。さらに片瀬奏磨さんは、高校生の時に戦争と平和、命の大切さを伝える作文を書きひょうご新聞感想文コンクール県知事賞を受賞した、今後は大学生として世界青年の船事業や模擬国連活動に参加し、国際問題や社会情勢について学び発信していきたいとコメントしました。

三人の発言を受けて、司会役で中田政子さんの次女である馬場敦子が、自身も学校のお話し会に行き祖母や母のことを伝えている、体験者がいなくなり平和教育がむずかしくなっているが悲観しておらず「命の伝言ゲーム」だと思っている、楽しく取り組んでいくことが人を引き付けるとコメント。また岡村代表は、戦争の歴史を学び事実を知り、そこから他者に対する思いを育んでいくことに記録し伝える活動の意味があると発言、田辺真人さんは、戦争の歴史を伝える歴史教育や市民運動、社会的視点と活動の大切さを強調されました。

このほか会場からのメッセージを紹介し、神戸市教職員組合の柴田健太郎さん、兵庫県生活協同組合連合会の吉本晴子さん、2020年大阪府高校生平和大使の中村さんと2023年兵庫県高校生平和大使の松尾さんからも発言をいただき、シンポジウムを終了しました。

多くの若い世代のみなさんに参加・発言をいただき、会として大きな力を得ることができた、そんな意義ある1日になりました。

講師と共催の労をとってくださった田辺真人さんと兵庫津ミュージアムをはじめ、開催にご協力くださったみなさまに、あらためてお礼申し上げます。(世話人：辻川敦)

神戸空襲を記録する会の「戦災アーカイブコレクション」の構築に向けて 「神戸空襲を記録する会の「記録」をめぐる活動と展開2023年」 長 志珠絵

2023年は、以下の①②を行った。

①は従来からの神戸空襲を記録する会収集史資料についての整理・冊子化の試みである。2018年度以降、神戸空襲を記録する会資料集5として佐々木和子氏とともに『紡ぐー「神戸空襲を記録する会」事始め』（2022年度「神戸大学地域連携」財源による）報告集冊子（A4、143頁）を作成、2023年3月発行し、神戸市及び県内大学図書館および公共図書館等に寄贈した。



①は3部構成からなる。神戸空襲を記録する会の初動の活動記録を通じ、地域の平和活動を「紡ぐ」営為とは何かーに焦点をあてた。

「第1部 記録を紡ぐー今こそ生きた「庶民の戦災史」を」では、1971年9月19日に兵庫県民会館で発会した「神戸空襲を記録する会」の立ち上げの時期に注目し、新聞記事一覧や当時若手の神戸新聞記者だった光森史孝さんへの聞き取り、お話の再録等のほか、1971年7月30日から9月12日に至る『神戸新聞』の特集記事「神戸明石大空襲」1～15、「阪神大空襲」1～29の記事タイトル一覧ほか主だった新聞記事を再録した。「記憶を風化させないー神戸空襲を記録する会の結成」で三木谷君子さんについての新聞記事、「頼れる人」として、中田政子さんの代表に至る回顧文などを掲載している。

「第2部 名前を記す せめてお名前だけでも」では、中田政子代表時代の2005年夏、再開・本格化し、2013年「神戸空襲を忘れない いのちと平和の碑」の完成に至る過程を、当時神戸新聞記者として中田政子さんとともに名簿集めを牽引した宮沢之祐さんへのインタビュー記事もふまえた。どった。

他、5号は資料編を充実させ、1971年10月10日創刊号（至1974年2月22日号）の『神戸空襲を記録する会々報』（1～7）および『こうべ空襲だより』（中田政子代表2002年3月17日、第1号～18号、2019年2月25日、現岡村隆弘代表2020年2月、第19号～21号、2022年2月8日）を全文再掲した。地域の市民運動の貴重な記録資料である。

②では、神戸市の「防空壕」について、「見る」「語る」企画を進めた。

主旨としては、街の空爆跡や防空壕写真、映像を大きな画面で映し出し、多くの目で見ること、それらの場所を特定し、経験を持つ人はもちろん、敗戦後の街の風景としてのかすかな記憶を持つ人も含め、戦争の記憶を共有していく、相互方向の試みである。

市内防空壕については、神戸市が取り組み始め、11月6日、神戸市行財政局業務改革課で情報交換の会を持った。また灘区の十善寺界限では防空壕のフィールドワークも含め、地域の歴史に関心を持つ集いがある。空襲被災経験のある高齢の方を中心に、11月27日会を持った。佐々木和子氏の防空壕解説も交え、神戸大学にてパワーポイントで神戸の防空壕写真資料（1945年10-12月、米国戦略爆撃調査団（USSBS）撮影）を拡大・投影、活発な意見交換、知見を伺う会となった。

これらをふまえ次に2月3日、USSBS撮影による神戸の焼け跡のカラー動画を見る会を、カラーフィルムの専門家の解説も交え神戸映画資料館にて企画した。戦後初期神戸の映像写真をスクリーンに映し出し、議論する機会を持つことで、当事者の記憶を呼び覚ます場を持ち、それらを記録し地域の経験として共有したい。



神戸市が調査する戦時下の防空壕について

2023年神戸市行財政局から発信された戦時下防空壕情報収集は、多くの方の情報提供で、41件（2023年10月23日現在）とホームページ上でも公表されました。

区別の防空壕数は、東灘区1、灘区7、中央区12、兵庫区3、長田区1、北区1、須磨区1、垂水区5、ということで、現存するものは12件となっていました。家の下に掘られたものはほとんど残っていませんが、中には頑丈な地下室として建設されたものが現存していました。また、どうしても山の斜面に掘られたものが多いのですが、道路工事など安全のためにのり面工事が行われ、埋められてしまったものも多いです。

神戸市では、戦争中の防空壕にまつわる記憶を合わせて収集されていて、貴重な体験も記載されていました。新聞にも取り上げられ、また情報が寄せられている様子が、2024年夏の中央図書館の戦災の展示に報告したい、とされています。

第53回空襲・戦災を記録する会全国連絡会議 秋田大会 現地開催とオンライン開催

2023年8月26日27日秋田大学で、現地開催とオンラインの併用で開催されました。



8月25日には空襲資料研究会もオンライン併用で開催されました。神戸大学大学院生西岡孔貴さんもパンプキン模擬爆弾の報告をされました。

8月26日は、秋田県を中心に地域における継承と学校教育での活用を中心に、土崎空襲に焦点をあてた報告がありました。神戸大学佐々木和子さんから「大阪陸軍造兵廠の8月14日

空襲」について報告があり、シンポジウム討論がありました。

2日目は各地からの取組みの報告がありました。青森空襲、釜石艦砲と集団疎開、仙台空襲の新作映像紹介など報告されました。神戸からも、7・30シンポジウムと次世代に引き継いでいく取組みを報告しました。

2024年第54回大会は、静岡県で8月24日25日に開催予定になりました。

また10月21日にオンラインで空襲・戦災を記録する会第2回総会が開かれ、「賛助団体」にも議決権を持てるなど会則が変更になりました。詳細はホームページで見ることができます。加入は個人会員として、年間2000円の会費納入で登録できます。会は、空襲、戦災について記録し、研究し、情報を交換し合い交流することを目的とします。全国大会、総会の開催、研究会学習会の開催（23年度は毎月1回のペースでオンライン学習会、米陸軍航空史を読む会が開催されました）会報「空襲通信」発行が掲げられています。

神戸空襲を記録する会は、賛助会員として加入、また代表、事務局長、世話人の中で、会員として登録することを確認しました。希望される方は、ホームページ上で手続きをしていただくか、記録する会にご連絡いただければと考えています。

空襲戦跡ボランティアガイド養成講座（全4回）

神戸空襲を記録する会や神戸平和マップをつくる会への戦跡ウォークへの協力要請が続いています。生協連の数年の取組みでは、下見を通じて若い世代が、子どもたちに伝えようと考え、詳しく調べてまとめるという取組が続いてきました。大学生は楽しんで取り組んでくださり、私たちも次への可能性を感じてきました。また、神戸市教職員組合の皆様も、自分たちで調べ組合員に広げようとして取り組んでおられました。このように若い世代にも神戸空襲について知ってほしい、ということもあり、ボランティアガイド養成講座を企画しました。

第1回 9月10日 兵庫区

第2回 11月12日 中央区

第3回 1月14日 灘区

第4回 3月10日 須磨区

阪急六甲にある神戸学生青年センターにおいて、奇数月の第2日曜日に全4回のプログラムで開催しました。

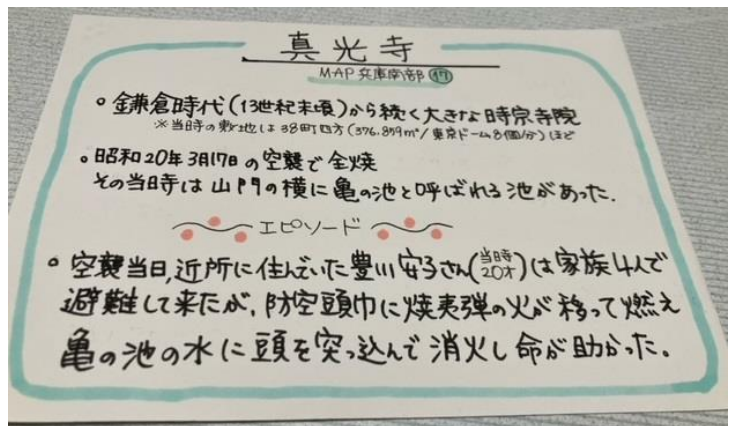
受講者は、20代からリタイア世代まで年齢・性別・経歴など様々なバラエティに富んだ面々が、集まりました。

回を重ねるごとに、それぞれの知識や知恵を持ち寄り共有し合う、という『みんなで作る参加型講座』になりました。

第1回では兵庫区の代表的な戦跡とそこにゆかりの体験記を読み知識を深め、平和マップをベースにモデルコースを提案し、ガイドとしての活動をするに当たって何が必要かを話し合いました。後日、さらに知識を深めるべく少人数でのフィールドワークも実施しました。

第2回からは、新聞でガイド養成講座が開催されることを知った、という安谷屋昇さん(90歳)が参加されています。1945年3月17日に長田区松野通で空襲に遭われた体験をお話してくださいました。学校での平和学習にも参加し、お話しいただきました。3月17日空襲犠牲者合同慰霊祭でも、お話いただく予定です。

第3回では、当初灘区と東灘区を取り上げる予定でしたが、2時間の講座で2つの区を扱うのは無理があるとして灘区に絞って話し合いました。JR灘駅近くに残る『赤トンネル』と呼ばれる戦跡について、新たな



資料がその場で共有されるなど、参加者のみんなで作り上げる講座という意識が更に深まりました。また、神戸大学の学生さんが卒業論文の参考にと参加され、『若い世代の私が同世代の友だちに紹介するなら』という新しい切り口の提案をしていただきました。また、ガイドのための「あんちょこ」を作ってみました。湊川隧道のガイドをされている方の紹介で、参加してみました。そこにある説明板を見て、神戸空襲の戦跡にもこういうものが欲しいと思い、考えてみました。

※原稿時点では第4回は未開催のため割愛

今後もボランティアガイド養成講座は継続して開催する方向で、焦らず地道に切磋琢磨して行けたらと希望しています。(馬場 敦子)



エノラゲイが投下した模擬原爆「ポンプキン」の行方を追え！

神戸大学法学研究科修士1年 西岡孔貴

広島へ原爆投下を担当した B29「エノラゲイ」は神戸にも来ていた！

1945年7月24日午前8時頃、4機の B29 が神戸に飛来した。このとき使用された爆弾は模擬原爆「ポンプキン」であり、原爆投下に向けた準備の一環であった。その中に、のちにエノラゲイと名付けられる 6292(7292 と表記する資料もあり)号機が参加していたのである。

この日、エノラゲイが攻撃に目標としたのは、当時の葺合区(現中央区)から灘区の臨海部に跨り位置した神戸製鋼所であった。しかし、当日の天候は曇りでどこに落ちたのか観測ができなかった。その影響もあり、戦後長らくが経過した今日においても具体的な着弾地点は不明なままである。



Captain Robert A. Lewis, (Airplane Commander).
Top row, 1 to 4—2nd. Lt. Richard McNamara, Captain Robert A. Lewis, 1st Lt. Stewart W. Williams, 2nd Lt. Harold J. Rider.
Middle row, 1 to 4—S/Sgt. Joe S. Stibork, T/Sgt. George R. Caron, Cpl. Richard M. Nelson, Sgt. Robert H. Shumari, T/Sgt. Wyatt E. Dusenbury, S/Sgt. Walter F. McCaleb.
Bottom row, 1 to 4—Pfc. Harold R. Olson, Sgt. Leonard W. Markley, Pfc. John E. Jackson, Pfc. John J. Lesnewski, Sgt. Steve C. Lizak, Cpl. Jean S. Cooper, Cpl. Winfield C. Kinkade.

▲当日投下を担当したルイス機長と 6292 号機
(広島平和記念資料館蔵"509th Pictorial Album")



▲摩耶山中で出土した鉄片
(2023年12月6日撮影)

そのポンプキンの着弾地点に

ついて、私は新しい仮説を提唱している。それは、「摩耶山中着弾説」である。日本側が記録した資料や航空写真の分析結果から、エノラゲイの投下したポンプキンは目標の神戸製鋼所から凡そ2キロ離れた摩耶山の山中に着弾した可能性が浮上したのだ。

そして、この仮説に基づき現地調査を実施したところ、ある発見があった。それは、「爆弾の破片」と思われる複数の鉄片を収集したことだ。これらの破片の大半は地中から出土しており、埋れてから年月が経過したことが窺える。一方で、これらの破片が何の爆弾の破片なのか現状では断定できず、通常爆弾の可能性も考えられるのだ。これらの鉄片の正体を突き止めるため、成分調査を進めると同時に鉄片の収集を進めることが今後の課題だ。

絵本「手をはなしたらあかんー神戸空襲とお父さん」

作者山村賢二さんご逝去

聴覚障害者にとって空襲がどれほど恐ろしいか、子どもたちにご自分が見られた神戸空襲の悲惨な実相を手話で語ってくださった山村賢二さん。10月13日亡くなりました。入院されていても学校訪問を心配され、「その日までには退院していきますから」とお返事くださっていたのに本当に残念です。

コロナ禍でも、山村さんの熱い思いがあり、神戸ろうあ協会の手話通訳派遣のご協力もあり、学校訪問が継続できました。さらに、山村賢二さんの絵本作りには、ろうあ協会が全面的に協力くださり、戦争中の聴覚障害者の状況や困難さも教えていただきました。7月には「聴覚障害者と戦争」について講演会



があり、戦争体験者のお話を聞く機会を作っていただきました。



絵本は神戸市内の

小中学校支援学校と図書館に寄贈しました。神戸ろうあ協会のご協力と多くの報道のおかげで、第1刷はなくなり、第2刷（普及版）を制作、協力金1000円でお分けしております。必要な方はご連絡ください。（神戸学生青年センター内

電話078-891-3018）

活動報告（2023年3月～2024年3月）

2023年

- 3月 1日（火）長田区サルビアギャラリー 神戸空襲について展示
- 3月 2日（木）灘の浜小学校 神戸空襲・戦争体験を話す 馬場（章）山村 小城
- 3月10日（金）NHK 山村賢二さん取材 大倉山の碑、大輪田橋にて
- 3月17日（金）第52回神戸空襲犠牲者合同慰霊祭 薬仙寺
17日 18日 19日 井沢元晴戦災画スケッチ展（足立恵美子さん所蔵）
NHK 合同慰霊祭と絵本「手をはなしたらあかんー神戸空襲とおとうさん」について報道
- 4月24日（月）世話人会 オンライン併用 学生青年センター
- 5月23日（火）神戸女学院大学 神戸空襲・戦争体験を話す会 馬場（章）、小城
- 6月 4日（日）第20回戦跡ウォーク（東灘区甲南山手駅から東灘南部）

6月18日(日)7月30日シンポジウム打ち合わせ 兵庫津ミュージアム 田辺、辻川、岡村、馬場、小城

6月26日(月)空襲を記録する会世話人会 オンライン併用 学生青年センター

7月23日(日)きこえない人のひとりぼっちをなくそう PROJECT 平和学習会 長田区文化センター

7月30日(日)シンポジウム 兵庫津ミュージアム

8月4日(金)～18日(金)神戸市戦災関連資料展 神戸市立中央図書館(大倉山)

8月6日(日)あかしピースネット 田島征彦さん講演会

岡尾さん 岡尾さん学童疎開資料、本など記録する会へ寄贈

8月11日(金)火垂るの墓を歩く会 勉強会 御影公会堂

8月16日(水)美野欣三郎さん 空襲体験聞き取り 佐々木、中田、小城、斎藤 芦屋市地域センター

8月25日(金)第24回空襲資料研究会(秋田大学)(以前の米軍資料研究会)

8月26日(土)27日(日)空襲戦災を記録する会全国交流会(秋田大学)オンライン参加

9月10日(日)第1回空襲戦跡ボランティアガイド養成講座 学生青年センター

9月17日(日)高校生平和大使ジュネーブ派遣報告会

9月25日(月)神戸市観光課探求学習
加古川市立加古川中学校1年

東明神社、石屋川、御影公会堂

馬場、築山、小城

10月2日(月)稗田小学校平和学習会
藤本、小城

10月14日(土)兵庫県平和友好祭戦跡
ウォーク(中央区)

10月15日(日)神戸電鉄敷設工事犠牲
者朝鮮人労働者追悼集会(会下山公園)

10月21日(土)空襲戦災を記録する会第2回総会 オンライン

10月25日(水)六甲アイランド小学校平和学習 徳永、藤本、小城

11月5日(日)灘区一王山十善寺 防空壕調査 平岡、前田、豊永、都藤、小城

11月6日(月)神戸市行財政局業務改革課防空壕調査話し合い 長、中田、小城、小西課長、沼田係長、中山

11月7日(火)春日台小学校平和学習 小城

11月12日(日)第2回空襲戦跡ボランティアガイド養成講座 安谷屋昇さんお話 学生青年センター

11月13日(月)空襲を記録する会世話人会 オンライン併用 学生青年センター

11月19日(日)生協連戦跡ウォーク(兵庫区南部)馬場、小城

11月20日(月)神陵台小学校平和学習 徳永、小城

11月21日(火)泉台小学校平和学習 井上、小城

11月27日(月)米軍防空壕調査写真を見る会 長、佐々木、塩見、都藤、平岡、前田、前田、小城 神戸大学
下畑台小学校平和学習 徳永、藤本、小城

12月4日(月)井吹東小学校平和学習 徳永、安谷屋、小城 毎日新聞取材

12月11日(月)道場小学校平和学習 徳永、米倉、小城 インフルエンザによる学級閉鎖で中止

12月13日(水)甲緑小学校平和学習 徳永、藤本、小城

12月18日(月)だいち小学校平和学習 徳永、安谷屋、小城

12月19日(火)竹川昌子さん 空襲体験聞き取り 飛田、小城 学生青年センター



1 2月26日（火）名簿整理作業引継ぎ 中田、岡村、小城 賀川記念館

2024年

1月14日（日）第3回空襲戦跡ボランティアガイド養成講座 学生青年センター

1月21日（日）火垂るの墓を歩く会西宮コース 飛田、山本、小城

1月29日（月）空襲を記録する会世話人会 学生青年センター

2月 1日（木）長田区サルビアギャラリー
神戸空襲について展示（3月31日まで）

2月 3日（土）「市民とともに読み解く神戸の戦後—戦災の記憶と記録—映像資料から（その1）神戸映画資料館
長、佐々木、小城

2月14日（水）灘の浜小学校平和学習 徳永、藤本、小城

2月15日（木）学生青年センターセミナー「原爆投下前に神戸山中に模擬爆弾が落とされた」
神戸大学大学院生 西岡孔貴さん

2月19日（月）明親小学校平和学習 林、馬場、小城

2月25日（日）神戸市立埋蔵文化センターセミナー 神戸空襲と体験者のお話（美野欣三郎さん）10時 14時

3月10日（日）第4回空襲戦跡ボランティアガイド養成講座 塚井昭武さん体験お話予定 学生青年センター

3月17日（日）第53回神戸空襲犠牲者合同慰霊祭 薬仙寺

連絡先 神戸空襲を記録する会 TEL078-891-3018 Fax078-891-3019



おかげさまで今年も14校の小学校・中学校・大学で神戸空襲についてお話しすることができました。また、生協連運動の平和活動に取り組む皆様のご協力もあり、兵庫県生活協同組合連合会の取り組みとして、大学生の協力を得てのピースガイドにも取り組み、戦争体験や命の大切さを伝えることができました。高校生平和大使支援の取り組みも4年になりましたが、神戸空襲を記録する会も、身近な地域の戦争を知って、と、慰霊祭や7・30シンポジウムへの参加を得ました。ジュネーブ派遣カンパも協力しました。また、2021年から西区埋蔵文化財センターでの神戸空襲について語る会が開催され、今回も2月25日に美野欣三郎さんにお話をさせていただくことになりました。

今回新たに 戦跡ウォークボランティアガイド養成講座を開き、様々に神戸空襲について関心を広げられれば、と取り組んできました。これからも、少しでも争うことの無意味さを伝え続けていきたいです。

<https://ksyc.jp/kobe-kuusyuu> 神戸空襲を記録する会

<http://www.kushusensai.net> 空襲・戦災を記録する会（全国）

<http://kmap.sakura.ne.jp> 神戸平和マップをつくる会

2023(令和5)年度 見込収支決算報告書

2023(令和5)年4月1日 ~ 2024(令和6)年3月31日(見込み)

一般会計

(収入)

協賛金	320,000	寄付・カンパ
利息	11	普通預金
前年度繰越金	2,832,774	
合計	3,152,785	

(支出)

交通・通信費	192,000	会報等発送
交通費	14,780	学校訪問交通費
催事運営費	135,200	催事運営費(お寺謝礼、行事費)
全国大会参加・関連諸費	2,000	オンラインで開催 年会費
事務費	95,810	事務所費・備品・印刷費
諸費	46,152	ボランティア保険 資料購入他
次年度繰越金	2,666,843	
合計	3,152,785	

「碑」建設・管理基金

「碑」建設・管理基金 2023(令和5)年度見込収支決算報告書

(収入)

寄付金	100,000
前年度繰越金	3,328,404
合計	3,428,404

(支出)

次年度繰越金	3,428,404
合計	3,428,404

協力金のお願ひ(お振り込みは下記へ)

郵便振替口座番号: 00920-3-154884

加入者名: 神戸空襲を記録する会

通信欄に **協力金** または **碑の維持・管理協力費** のどちらかわかるようにご記入ください。